

日本原水協活動交流ニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com

2012年
10月16日
No.55

代表団の要請が国連軍縮局HPに掲載



The screenshot shows the UNODA website interface. At the top, there's a navigation bar with the UNODA logo and the tagline "... strengthening peace and security through disarmament". Below this, there are menu items: "Weapons of Mass Destruction", "Conventional Arms", "Regional Disarmament", "Confidence Building", and "Other Disarmament Issues". The main content area features a large blue banner with the text "UNODAupdate" and the UN logo. To the left is a sidebar with navigation links: "Home", "About Us...", "All Issues", "Institutions", and "UNODA Offices Away from Headquarters". The main article is titled "THE JAPAN COUNCIL AGAINST ATOMIC AND HYDROGEN BOMBS (GENSUIKYO) VISITS HIGH REPRESENTATIVE FOR DISARMAMENT AFFAIRS". The article text states: "12 October 2012 — Yesterday, a delegation of 7 peace activists of The Japan Council against Atomic and Hydrogen Bombs (Gensuikyo) visited the United Nations Office for Disarmament Affairs (UNODA) in New York and handed over a symbolic signature of the appeal for a total ban on nuclear weapons to Ms. Angela Kane, High Representative for Disarmament Affairs. Their campaign to collect signatures in Japan and overseas calling for a total ban on nuclear weapons was launched in February". To the right of the article is a photo of the delegation presenting a document to Ms. Kane, with a caption: "Gensuikyo delegation presents Ms. Kane with a symbolic signature of the 'appeal for a total ban on nuclear weapons'". Further right, there's a section titled "Fourth Quarter, 2012" with sub-headers: "The Japan Council against Atomic and Hydrogen Bombs (Gensuikyo) visits High Representative for Disarmament Affairs" and "Senior officials meet to discuss Conference on the establishment of a Middle East Zone free of nuclear weapons and all other weapons of mass".

日本原水協国連要請代表団が10月12日、アンゲラ・ケイン軍縮問題担当上級代表を訪問した様子が軍縮局のホームページに掲載されています (<http://www.un.org/disarmament/update/20121012/>)。以下、日本語訳を紹介しします。

原水爆禁止日本協議会（原水協）、国連軍縮問題上級代表を訪問



ケイン上級代表に「核兵器全面禁止のアピール」署名
目録を手渡す原水協代表団



2012年8月に開かれた原水爆禁止世界大会での写真を
ケイン上級代表に渡す土田弥生さん



2012年10月12日(国連軍縮課)— 昨日、7名からなる原水爆禁止日本協議会(原水協)の代表団がニューヨークの国連軍縮課を訪問し、アンゲラ・ケイン軍縮問題上級代表に「核兵器全面禁止のアピール」署名の目録を手渡しました。

核兵器の全面禁止を求めるこの署名運動は、2011年2月に開始されました。同年3月11日には、大震災と津波が日本を襲いましたが、署名運動は被災地を含む日本全国で続けられました。今年10月時点で、日本国内では737人の地方自治体首長・副首長、議会議長・副議長を含む210万人を超える人々の署名が集まっています。

代表団との懇談の中でケイン上級代表は、軍縮の諸目標の促進と達成、そして具体的な成果に必要な政治的意志の維持のために、市民社会が非常に重要な役割を果たしていることを強調しました。上級代表はまた原水協代表団に対し、毎年はるばる国連まで足を運んでくれていることに感謝を表明しました。原水協代表団は、軍縮問題が討議される第一委員会に出席するためにニューヨークに派遣され、核兵器廃絶を求める決議の採択を促進するために、加盟国政府代表団と対話を行っています。

原水協代表団との懇談の席上、ケイン上級代表は、最近開始されたマルチメディアウェブサイトの「ヒロシマ・ナガサキ・ダウンロード」について説明しました。これはアメリカ大陸に移住した被爆者の証言を中心としたものです。ウェブサイトは国連の6つの公用語で見ることができ、ドイツ語、イタリア語、朝鮮語、ポルトガル語への翻訳も進行中です。上級代表はまた、国連平和とアートコンテストの13歳～17歳部門での入選者2名はどちらも日本人だったこと、全ての入賞者の作品は国連カレンダーに収録されていることも紹介しました。また、代表団に国連本部のロビーで開催中の「世界には兵器がありすぎ、平和には資金が足りなすぎる」と題した展示を見ていって欲しいと述べました。

原水協は1955年9月19日に日本で結成されました。青年、女性、労働、医療など60の全国団体が加盟している協議体で、構成員数の総計は250万人。日本の47都道府県に県原水協と市町村原水協があります。日本原水協は2012年に国連社会経済理事会(ECOSOC)との協議資格を認められました。



取り組みを説明する原水協代表



国連平和とアートコンテスト入賞作品を収録した2013年カレンダーを紹介するケイン上級代表